

## 46:専攻医研修実績記録

- ・ 経験した症例、手技、検査の日付・I症例の年齢性別・指導者名・自己評価と他者評価
- ・ 経験した学会・研究会等への参加・発表の日付・内容
- ・ 連携施設への出張記録(日付・内容)
- ・ 経験したカンファレンスの日付・内容
- ・ 分野別症例リスト

## 研修の達成レベルと評価基準

総論と各論の各項目について到達すべきレベルを示す。  
到達レベルおよび評価基準の指標は以下のとおりである。

### 到達レベル

#### I. 知識

- A: 正確に人に説明できる
- B: よく理解している
- C: 概略を理解している

#### II. 診断・評価(検査)

- A: 自分一人で行える／中心的な役割を果たすことができる
- B: 指導医のもとで行える／適切に判断し専門診療科と連携できる
- C: 概略を理解している、経験している

#### III. 処置・治療

- A: 自分一人で行える／中心的な役割を果たすことができる
- B: 指導医のもとで行える／適切に判断し専門診療科と連携できる
- C: 概略を理解している、経験している

#### IV. 学問的姿勢

- A: 自分一人で行える／中心的な役割を果たすことができる
- B: 指導医のもとで行える
- C: 概略を理解している、経験している

#### V. 倫理・社会など

- (1)(2) A: 正確に人に説明できる
- B: よく理解している
- C: 概略を理解している
- (3)(4) A: 自分一人で行える／中心的な役割を果たすことができる
- B: 指導医のもとで行える
- C: 概略を理解している、経験している

### 評価基準

- 3: 目標に達した
- 2: ほぼ目標に達した
- 1: さらに努力を要する

### 経験するべき数

経験するべき最低限の数を示している  
総論 IからVにおいては、特に記載がないものは1例(1回)以上  
各論 (1)から(8)については下記

各論における最低限必要な経験症例数と詳細な疾患群ごとの症例数

- (1)脳血管障害・外傷性脳損傷など:15例 うち脳血管障害13例 外傷性脳損傷2例
- (2)脊椎脊髄疾患・脊髄損傷:10例 うち腰痛・脊椎疾患2例以上 脊髄損傷2例以上
- (3)骨関節疾患・骨折:15例 うち 関節リウマチ2例以上 肩関節周囲炎、腱板断裂などの肩関節疾患2例以上 変形性関節症(下肢)2例以上 骨折2例以上 骨粗鬆症2例以上
- (4)小児疾患:5例 うち 脳性麻痺2例以上 二分脊椎1例以上
- (5)神経筋疾患:10例 うち パーキンソン病2例以上 脊髄小脳変性症1例以上 多発性硬化症1例以上 筋萎縮性側索硬化症1例以上 多発性神経炎1例以上 ポストポリオ1例以上 末梢神経障害1例以上
- (6)切断:5例
- (7)内部障害:10例 うち呼吸器疾患2例以上 心・大血管疾患2例以上 末梢血管障害2例以上 その他の内部障害2例以上
- (8)その他:5例 うち廃用2例以上 がん1例以上 疼痛性疾患1例以上 認知症1例以上

総論 IIとIIIにおいては、経験すべき数について2以上が指定されているものについては、経験ごとにNo.1 No.2 と記入していくこと。

項目	到達レベル			経験すべき症例数	実施日	症例の年齢性別	自己評価	指導責任者評価			
	1年次	2年次	3年次					評価	施設番号	評価日	指導者名
摂食嚥下訓練				2							
間接訓練と直接訓練を処方できる	B	A	A	No.1	2014/1/10	998877	3	3	A1111	2014/1/10	Sig
間接訓練と直接訓練を処方できる	B	A	A	No.2	2014/3/3	667788	3	3	A1111	2014/3/4	Sig

総論 IVとVにおいては、学会発表、研修会参加等について、下記のように経験ごとにNo.1 No.2 と記入していくこと。最低限の数を超過して記入する必要はない。

項目	到達レベル			経験した日付・内容				1年次自己評価	1年次指導責任者評価			
	1年次	2年次	3年次	経験数	名称	日時	内容		評価	施設番号	評価日	責任者名
学会主催の講演会、研修会に参加している	B	B	B	2	名称	日時	内容					
				No.1	〇〇研修	2014/2/10	〇〇の基	3	3	A1111	2014/2/12	Sig
				No.2	△△研修	2014/6/10	△の応用	2	3	A1111	2014/6/12	Sig



















IV 学問的姿勢

分類	項目	到達レベル			経験した日付と内容			1年次	1年次指導責任者評価				2年次	2年次指導責任者評価				3年次	3年次指導責任者評価				
		1年次	2年次	3年次	経験数	名称	日付	自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	
IV	学問的姿勢																						
(1)	科学的思考・論理的思考																						
	効率的な診療を行うために、clinical reasoning（診療における推論過程）を理解し、実践できる。	B	B	B																			
	科学的根拠に基づく医療を行うために、Evidence-based Medicine (EBM) を理解し、実践できる	B	B	B																			
	ガイドラインに基づく医療を実践している	A	A	A																			
(2)	生涯学習																						
	定期的に医学雑誌を読んでいる	A	A	A																			
	学術集会・地方会に参加している	A	A	A	3	名称	日付	内容															
No.1																							
No.2																							
No.3																							
	学術集会・地方会で発表している	B	B	B	1	名称	日時	共同演者・内容															
No.1																							
	学会主催の講演会、研修会に参加している	B	B	B	2	名称	日時	内容															
No.1																							
	No.2																						
	医学研究に関する倫理について会得している	A	A	A																			
	医学研究に関する利益相反について理解している	A	A	A																			
	基礎研究の発表・論文を理解できる	C	C	C																			
	臨床研究を適切に立案し実施できる	B	B	B																			
	学会発表を適切に行うことができる	B	B	B																			
	医学論文を適切に作成することができる	B	B	B																			



































経験すべき疾患別症例(100症例)		診断名	症例の年齢性別	経験日・期間	指導医名	症例報告(30例)の有無
必須症例(75症例)	(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など					3症例が必須
	脳血管障害	No1				
	脳血管障害	No2				
	脳血管障害	No3				
	脳血管障害	No4				
	脳血管障害	No5				
	脳血管障害	No6				
	脳血管障害	No7				
	脳血管障害	No8				
	脳血管障害	No9				
	脳血管障害	No10				
	脳血管障害	No11				
	脳血管障害	No12				
	脳血管障害	No13				
	外傷性脳損傷	No14				
	外傷性脳損傷	No15				
	(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷					3症例が必須
	腰痛・脊椎疾患	No1				
	腰痛・脊椎疾患	No2				
	脊髄損傷	No3				
	脊髄損傷	No4				
		No5				
		No6				
		No7				
		No8				
		No9				
		No10				
	(3) 骨関節疾患・骨折					3症例が必須
	関節リウマチ	No1				
	関節リウマチ	No2				
	肩関節周囲炎、腱板断裂などの肩関節	No3				
	肩関節周囲炎、腱板断裂などの肩関節	No4				
	変形性関節症(下肢)	No5				
	変形性関節症(下肢)	No6				
	骨折	No7				
	骨折	No8				
	骨粗鬆症	No9				
	骨粗鬆症	No10				
		No11				
		No12				
		No13				
		No14				
		No15				
	(4) 小児疾患					3症例が必須
	脳性麻痺	No1				
	脳性麻痺	No2				
	二分脊椎	No3				
		No4				
		No5				
	(5) 神経筋疾患					3症例が必須
	パーキンソン病	No1				
	パーキンソン病	No2				
	脊髄小脳変性症	No3				
	多発性硬化症	No4				
	筋萎縮性側索硬化症	No5				
	多発性神経炎	No6				
	ポストボリオ症候群	No7				

- (1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など
- (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷
- (3) 骨関節疾患・骨折
- (4) 小児疾患
- (5) 神経筋疾患
- (6) 切断
- (7) 内部障害
- (8) その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患)

		末梢神経障害	No8				
			No9				
			No10				
(6) 切断							3症例が必須
			No1				
			No2				
			No3				
			No4				
			No5				
(7) 内部障害							3症例が必須
		呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患・拘束	No1				
		呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患・拘束	No2				
		心・大血管疾患(心筋梗塞・心不全・大	No3				
		心・大血管疾患(心筋梗塞・心不全・大	No4				
		末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症・深	No5				
		末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症・深	No6				
		その他の内部障害(糖尿病・慢性腎疾	No7				
		その他の内部障害(糖尿病・慢性腎疾	No8				
			No9				
			No10				
(8) その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など)							
		廃用症候群	No1				
		廃用症候群	No2				
		がん	No3				
		疼痛性疾患(慢性疼痛・複合性局所疼	No4				
		認知症	No5				
選択症例(25症例)	(9) (1)-(8)の分野での症例						
			No1				
			No2				
			No3				
			No4				
			No5				
			No6				
			No7				
			No8				
			No9				
			No10				
			No11				
			No12				
			No13				
			No14				
			No15				
			No16				
			No17				
			No18				
			No19				
			No20				
			No21				
			No22				
			No23				
			No24				
			No25				

長など)